授賞者諸君．右から坪田義夫（トヨタ），松藤恭介（東洋工業）．小笠原武夫（豊田中研）．

浅原名誉会員のあいさつ

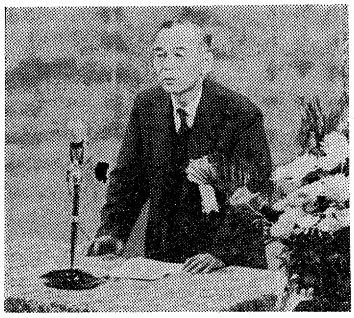
ダイハツの 10 社）とも1年間据おき，10ヵ年の年賦で返済する，その間の利子は無利子とする旨説明があり，承認．

》FISITA に関する報告

吉城常任理事から FISITA 国際会議に関する現状の報告があり承認．

▶第 13 回自動車技術会賞授賞式

（5 月 15 日　11：30～12：20．　東条ホール）



審査経過を発表する田中審査委員長

》田中敬吉審査委員長から学術・技術賞の授賞候補者審査経過報告があり，つぎの3君が第 13 回自動車技術会賞を授与される旨発表された．

》浅原名誉会員から，長い間病いと闘つていたが，本日ここに回復して元気な姿でふたたび協力できる旨あいさつがあり第1回浅原賞が生まれた当時からの経過の説明があつた．

》授賞は荒牧会長から3君へ授与された

—受賞者3君の略歴—

学術賞　『V ベルト自動変速機の変速に関する研究」

小笠原武夫君・29 歳

（豊田中央研究所）

昭和 31 年 3 月　静岡大学工学部機械工学科卒業

昭和 31 年 4 月　東京大学大学院数物系研究科機械工学コース入学

昭和 33 年 3 月同上　修士課程修了

4 月同上　博士課程入学

昭和 37 年 3 月同上　博士課程卒業　工学博士

昭和 37 年 4 月　豊田中央研究所へ入社

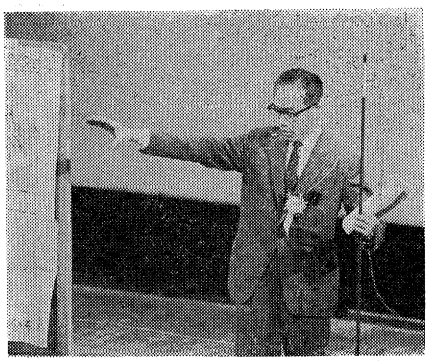
（授賞の理由）　V ベルト自動変速機の変速に関する研究において，ベルトの弾性変形を考慮する独自の理論によつて変速特性を求める理論的ならびに実験的解析を行なうとともに，とくにスタータ用変速機の設計および実用に有意義な資料を提供し，わが国の自動車工学に関する学術の向上に大きな寄与をなした．

（「生産研究」Vol. 14, No. 6 参照）

技術賞　「自動車用歯車の設計・製造技術の開発」

坪田義夫君・45 歳

（トヨタ自動車工業株式会社）



講演中の北川徹三氏（特別講演会）

"EEG 内における企業合同" について講演する野津彰氏

昭和 16 年 3 月　東北大学機械工学科卒業

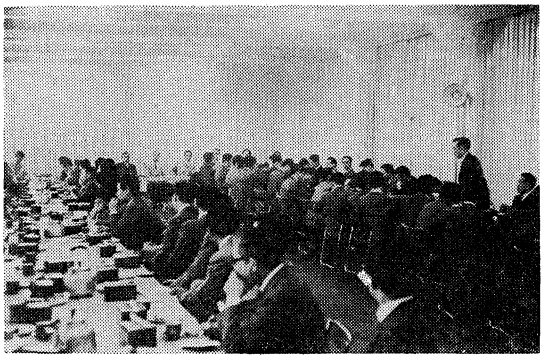
昭和 16 年 4 月　トヨタ自動車工業（株）へ入社．歯車の設計・製作に従事．

昭和 36 年 9 月　同社元町工場・組立部へ勤務．現在組立部長．

（主な業績と授賞の理由）　自動車用歯車類ディファレンシャルギヤ（スパイラルベベル，ハイポイド，ストレートベベル）およびトランスミッションギヤ（スパー，ヘリカル）の騒音排除，強度適正化とステヤリングウォームの強度適正化に対する設計面，製造面（歯切り，焼入歪，ラッピング組付など）の技術開発向上につくした．

多年にわたり，一貫して自動車用歯車類の研究開発に従事し，とくに変速機歯車および差動機歯車の騒音低下と寿命延長を目的として，歯車の加工精度，歯車箱の剛性ならびに歯車支持法，熱処理歪ラッピング加工その他，設計および製造技術上の多くの研究改良を行ない，同社製品の歯車類の性能改善と生産能力の増強に貢献している．

技術賞　「自動車部品に対するダクタイル鋳鉄の応用」



第3班トヨタ自動車を見学したのち，会社側との懇談会

松藤恭介君・34歳
(東洋工業株式社会)

昭和26年3月　九州大学工学部冶金科卒業

昭和29年3月　九州大学大学院修了

昭和29年4月　東洋工業(株)へ入社．鋳造課に勤務．現在に至る．

昭和37年2月　シェルモールド法によるダクタイル鋳造製クランクシャフトの鋳造に関する研究により九州大学から工学博士号を授与される

(主な業績と授賞の理由)　従来使われてきた鍛鋼，鋳鋼ならびに可鍛鋳鉄などの部品をシェルモールド法によるダクタイル鋳鉄におきかえることによつて，品質の向上と経済的な自動車部品の製造に関する研究を行なつた．ダクタイル鋳鉄の"ひげ""ドロス""ピンホール"などの鋳造欠かんを防止するため鋳造方案，Mg添加量の減少，化学成分などの検討のほか，鋳造上のあらゆる条件を確立した．

現在塩基性キュポラ操業によりクランクシャフト，ギヤケース，ホイルハブなどの65点の部品について応用し，月間約1,000トン(溶解重量)の生産を行なつており，従前に比べてコストを約20%切下げることができた．

また，昭和37年11月には，第27回DCI技術委員会においてInternational Nickel Co. (USA)よりDCI技術賞を受けた．

▶特別講演会(5月15日13：30～14：30．東条ホール)

第1日の特別講演は「自動車の排気ガスについて」と題し，横浜国立大学工学部教授北川徹三氏が講演．

▶懇親会(5月15日18：30～20：30．東条会館)

恒例の懇親会も今回は特に多数の会員諸君が出席，荒牧会長をはじめ来賓のあいさつがあり，45名にのぼり盛大に開かれた．

▶学術講演会(5月15日9：10～10：50，14：40～18：10．16日9：10～11：50，14：10～17：15.)

2日間にわたり25の講演が行なわれた．(講演題目はVol. 17, No. 3, 1963. p. 224. 技術会通信欄参照)

▶特別講演会
(5月16日13：00～14：00)

2日目の特別講演会は同じく東条ホールにおいて「EEC内における企業合同について」と題し，財団法人日本生産性本部審議役野津彰氏が講演，変動する世界経済を中心に長時間にわたり講演が行なわれた．

▶見学会(5月17日4班にわかれ開催)

今回は，各社のご好意により見学者数を各班とも150名に押えたが，日産・いすゞの2社は500名にのぼる申込者が殺到厳密な抽せんで定員にしぼつたほどである．各班の参加者はつぎのとおり．

第1班　日産自動車・追浜工場
(参加者159名)

第2班　いすゞ自動車・藤沢工場
(参加者133名)

第3班　トヨタ自動車・元町工場
(参加者92名)

第4班　ダイハツ工業・池田第二工場
(参加者26名)

▶昭和38年度編集委員会

第1回編集委員会をこのほど開催し，中島桂太郎氏(トヨタ自動車)を委員長に互選した．委員(順不同)には山田嘉昭(東大生研)，佐藤　豪(慶大)，五味　努(上智大)，景山克三(日大)，斉藤　孟(早大)，片山正芳(鉄研)，葭原和典(船研)，宮本晃男(運輸省)，菊池英一(機試)，鈴本作良(部工会)，蓮尾諭吉(富士重工)，近藤康治(富士自動車)，羽鳥鷹兵(トヨタ)，神谷　彰(いすゞ)，小平　薫(日産)，増田哲三(プリンス)，岩坪善樹(日野)，小早川隆(ダイハツ)，中村良夫(本田技研)，渡辺　正(新三菱)，小島一郎(三菱日本)とさらに中部支部から鈴木修幹事が出席し委員会を構成している．全体の編集方針については，今回の会費値上げによる収入のほとんどが会誌の内容充実に向けられているので，慎重な審議をつづけている．まず基本方針としては論文集を別冊として年2回ほど発刊し，8月を普通号，9月を中部支部特集号に，10月に材料特集を，11月には自動車技術会の技術会議と規格会議の紹介号として準備をすすめている．

ページ数は，本号から毎号88ページを基準とし，内容と共に会員諸君のご期待にそうべく増ページ化へ向かつている．

来年5月開催のFISITA国際会議を記念してFISITA特別号も発行すべく計画をすすめている．

内容の充実と共に変ぼうする本誌をさらにご期待ねがいたい．

▶1963年版国産自動車諸元表

去る4月1日から発売している運輸省自動車局監修による国産自動車諸元表は，その後残り少なくなつてまいりましたので，ご入用の方は至急自動車技術会事務局までお申込み下さい．

会員特価　1部　**500**円
(非会員　1部　600円)

送料は1部につき70円実費申受けます．なお，代金は前納ねがいます．

自動車技術会　編集　　自　動　車　技　術　　昭和38年6月25日　印　刷
昭和38年7月1日　発　行

Vol. 17, No. 7, 1963.　　定価　**250**円(〒18円)

発行所　社団法人　自動車技術会
東京都港区赤坂溜池町11番地
電話赤坂　481-0660, 4798・581-9514
振替口座東京196, 725番

編集発行人　吉城肇蔚
印刷所　大日本印刷株式会社